

別紙 1

論文審査の要旨

報告番号	甲 第 2712 号	氏 名	斎藤 祥
論文審査担当者	主査	土岐 彰	外科学講座（小児外科学部門） 教授
	副査	瀧本雅文	臨床病理診断学講座 教授
	副査	泉崎雅彦	生理学講座（生体調節機能学部門） 教授
<p>（論文審査の要旨）</p> <p>人間の奇静脈は一般的に胸郭内で椎体の右側を走行すると考えられてきたが、奇静脈を椎体の中央付近に描く文献も散見し、加齢による奇静脈の走行の変位について言及する報告も認められる。本研究は加齢が奇静脈の走行に与える要因を様々な観点から統計学的に検討したものである。</p> <p>47 体の成人屍体（68 歳-98 歳、平均 84.7 歳）を対象とし、奇静脈の走行を観察した。奇静脈の左側変位を認める場合、長軸方向の変位距離をその屍体の椎体数で表記し測定した。さらに奇静脈と半奇静脈の共通管が奇静脈の最も左側変位している部位に存在するか否か、また、椎体に沿って骨棘形成を認めるか否かを観察した。</p> <p>結果として、45 例（94%）の屍体で奇静脈の左側変位があり、年齢と奇静脈の左側変位距離との間に正の相関が認められた（$r = 0.3061$、$P = 0.0364$）。奇静脈の左側変位距離と共通管の存在、また、骨棘形成との間に有意な関連性は認めなかった。</p> <p>このことより、加齢が奇静脈の左側変位の一つの要因となる可能性が示唆された。</p> <p>本論文は新しい知見を得ており、学術上価値のあるものとして、学位論文に値すると判断した。</p> <p>論文題名：</p> <p>The impact of aging on the course of the azygos vein （加齢が奇静脈の走行に与える影響についての検討）</p> <p>掲載雑誌名：</p> <p>Okajimas Folia Anatomica Japonica Vol.92 No.1 2015 年 掲載予定</p>			

（主査が記載、500 字以内）